

「パレスチナ開発のための東アジア協力促進会合（CEAPAD）」
第二回閣僚会合における岸田外務大臣ステートメント

平成26年3月1日

ユドヨノ・インドネシア大統領、ハムダッラー・パレスチナ首相、
御列席の皆様、

本会合開催に当たり、主催国インドネシアの尽力に心から感謝申し上げます。

~~~~~

「中東和平の実現に、アジアの力を。」

これが、昨年2月、CEAPADが東京で上げた産声です。それからわずか1年、人材育成や民間セクター開発に関する会合を開催する等、CEAPADは着実に成長しています。そして本日、新メンバーを迎えて、第2回閣僚会合に至りました。皆の手でCEAPADを大きく育て、和平実現にアジアの力を結集する、私は、その決意を新たにしました。

中東和平プロセスにも進展がありました。昨年7月、米国の仲介により約3年ぶりに交渉が再開され、現在大詰めを迎えています。今こそ、和平実現に向けて国際社会が立ち上がる時。CEAPADは、世界に範を示す、時宜を得た取組です。

~~~~~

御列席の皆様、

改めて次の4点を想起したいと思います。

第一に、中東和平問題が、過去半世紀以上に亘り、不幸にも地域紛争の火種であったこと。

第二に、中東和平問題が、世界のイスラム教徒、ユダヤ教徒、そしてキリスト教徒の琴線に触れる問題であること。

そして、第三に、それが故に、和平実現が地域安定化の核となる

こと。

最後に、和平実現が、国際社会の安定に不可欠なグローバル・イシューであること。アジアにとっても、決して遠い地域の他人事ではないのです。

この問題に関し、アジア諸国には様々な立場があると思います。しかし、私は、参加国が共通の意思を有している信じて止みません。地域の平和と安定を約束するパレスチナの国づくりを支援する、との決意です。そうした支援こそが、両当事者が平和裡に共存共栄する「二国家解決」の実現につながるのです。

御列席のアジア諸国の GDP 総額は、今や全世界の約 30%を占めています。アジアの成長を支えた人材育成や民間セクター発展の知見・経験は、必ずやパレスチナの国づくりに貢献するでしょう。

~~~~~

御列席の皆様、

起伏の激しい急峻な町ラマッラ、高層ビルが建ち並ぶ海岸沿いの都市テルアビブ。昨年7月の現地訪問の際、明らかな格差を目の当たりにし、和平定着にはこれを少しでも埋めていくことが不可欠だと、改めて感じました。

1993年のオスロ合意以降、日本は、総額約13.8億ドルに上るパレスチナ支援を行い、統治機構整備や女性・子供を含む市民生活を支えてきました。

一昨年、日本は、国連においてパレスチナに「非加盟オブザーバー国」の地位を付与する総会決議を支持しました。

そして昨年、イスラエル、パレスチナ、ヨルダンの閣僚と一堂に会し、パレスチナの経済的自立を目指す「平和と繁栄の回廊」構想の発展について、真剣に議論しました。旗艦事業であるジェリコ農産加工団地は、本年夏頃にも生産開始予定で、将来、7千人の雇用と2万人の裨益者を生み出す見込みです。

これらは全て、パレスチナの国づくりを支え「二国家解決」を目指す努力に他なりません。

~~~~~

御列席の皆様、

「議論」から「行動」へ。

誕生から一年、CEAPADは、次なるステージに移行します。日本は、CEAPADでの議論に基づき、4つの具体的行動をとります。

- 第1に、今後、約2億ドルのパレスチナ支援を実施します。まずは、約3000万ドルの財政支援、約2000万ドルのインフラ支援を含む約6200万ドルの支援を今月中に拠出予定です。
- 第2に、今後5年間で約1000人の人材育成支援を実施します。これにはインドネシア、マレーシア、シンガポール、タイとの新規三角協力が含まれます。
- 第3に、JICAの協力の下、イスラム開発銀行に設立される基金を活用するメカニズムを立ち上げ、CEAPADの人材育成支援を一層推進します。
- 第4に、ジェリコ農産加工団地の生産開始に向けて、約620万ドルのインフラ支援と専門家派遣を行います。

~~~~~

御列席の皆様

CEAPADが大きな潜在性を秘めていることに疑いの余地はありません。

「中東和平プロセスにCEAPADあり。」

これを世界に示すため、皆で力を合わせ、パレスチナの経済発展に貢献しようではありませんか。日本は、積極的平和主義の下、CEAPADを力強く牽引していきます。CEAPADが、国際社会の努力と相乗効果を生み、和平実現への意味ある貢献になると信じて、私のステートメントといたします。

御静聴、ありがとうございました。

(了)